

# 女性農業委員が中心となる取り組みについて

徳島県 鳴門市農業委員会

## I 鳴門市の概要

鳴門市（なるとし）は、四国の東端、徳島県の北東端に位置し、四国本島、大毛島、高島、島田島からなり面積は135.46 km<sup>2</sup>。人口は60,846人（平成26年11月末時点、鳴門市役所ホームページより）です。また、鳴門海峡を隔てて淡路島と対峙し、四国と関西を結ぶ交通の要衝であり、四国の玄関口となっています。気候は瀬戸内海気候に属し、温暖小雨の地域であり、香川県境の山間部の一部は粘土質な土壌が多く、土壌を活かした陶器、大谷焼が有名です。北部で見られる特異な地形が生み出す鳴門海峡のうずしおを含む15,38haが瀬戸内海国立公園に指定され、ドイツ館や四国八十八カ所の一番札所霊山寺などの観光地を抱える徳島県下有数の観光都市であると同時に、地元発祥の大塚グループ関連の工場や施設が多数立地する企業城下町としての側面も有しています。



## II 鳴門市農業の概要

鳴門市は全国有数の農産物が多く生産されており、徳島県内でも農業の盛んな地域です。

### a 「レンコン」

吉野川の豊かな水と粘土質土壌で作られた「レンコン」はシャキシャキで歯ごたえがあるものとホクホクともっちりしたものがあり、ビタミンCや食物繊維を多く含みます。収穫量は茨城県について第2位。光沢のある白さが美しいと評判の逸品です。収穫は主に夏と冬であり、1年を通して出荷されます。

### b 「なると金時」

温暖な気候と、水はけの良いミネラルをたっぷり含んだ砂地で、ビタミンB1、ビタミンC、食物繊維豊富な「なると金時」が作られます。平成19年に特許庁から地域団体商標としての登録が認められ、品の良い素材の甘さが全国区で人気となり、自慢の特産物になっています。収穫は主に晩夏から秋にかけて行われ、貯蔵することにより1年を通して出荷しています。

### c 「らっきょ」

鳴門市大毛島で栽培される「らっきょ」は鳴門海峡に面した銀砂と呼ばれる保肥力と排水性に優れたミネラルたっぷりの海砂で栽培されており、小粒で色白、歯ごたえの良く、殺菌作用のあるアリシンを多く含み、昔は薬用として使われていました。収穫は春から初夏にかけて行われます。

### d 「大根」

なると金時の裏作で秋冬に作られる「大根」は水分が多く含んで歯切れが良く、成分のジアスターゼは消化を助けます。葉の部分もビタミンB1、ビタミンC、カルシウムが多く、捨てる部分なくすべて利用できます。根の上部は甘く下部はほどよく辛いのが特徴です。

### e 「梨」

日照時間が長い地域で栽培される「なし」は盆前に出荷でき、果肉が大きく肉質が柔らかいのが特徴です。品種は幸水、豊水を主流とし、京阪神市場から高い評価を得ており、お中元におすすめの逸品です。

○統計

農業経営体数	1,146 経営体
基幹的農業従事者	2,284 人
基幹的農業従事者平均年齢	60.0 歳
農地面積	1,492ha
耕作放棄地	231ha
青年就農給付金受給者	24 人 (21 件)

(※平成24年～25年度徳島県農林水産統計年報中国四国農政局統計部より)

	水稻	甘藷	レンコン	大根	らっきよ	梨
面積 (ha)	381	610	290	188	32	151
出荷量 (t)	1,798	13,841	3,787	14,510	505	2,269
販売高 (千万円)	1.3	500	200	121	36	70

(鳴門市農林水産課統計より)

被保険者数	95 人 (通常加入 43 人) (政策支援加入 52 人)
待期者	25 人
旧制度受給者	341 人
今年度加入目標数	10 人 (通常加入 3 人) (政策支援加入 7 人)
加入対象者として働きかける人数	10 人 (通常加入 2 人) (政策支援加入 8 人)

新規加入者実績

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
6名	5名	4名	6名	3名

加入推進体制 (8名)

加入推進部長	農協理事	3名
	農業委員	1名
推進員	農業委員会事務局	1名
推進員	農協担当者	3名

(農業者年金基金統計と加入推進対象者名簿より)

### Ⅲ 農業委員会の体制

平成26年7月に行われた第22回農業委員選挙によって農業委員会は、選挙委員25名と選任委員9名（農協推薦4名、土地改良区1名、議会推薦4名）の合計34名で構成されています。また、平成26年7月25日に行われた改選後初の総会で県内初の女性の農業委員会会長が誕生しました。



#### ○事務局職員は専任が4名

職員	職務内容
事務局長	総括
事務局次長	局長補佐 農政・農地係
係長	農地係
主事	農政係



(左から七尾係長、佐竹事務局次長  
氏橋事務局長、吉川主事)

## ○女性農業委員

議会推薦の委員として4名が任命。

委員（期）	役職	農産物	経営面積
谷口清美（2期目）	会長	レンコン、水稻	507アール
斎藤はつ子（2期目）	委員	水稻、酪農（乳牛50頭、子牛40頭）	1037アール
林博子（1期目）	委員	甘藷、大根	269アール
原内秀美（1期目）	委員	水稻、甘藷、柑橘類	64アール



（左から原内委員、林委員、谷口会長、斎藤委員）

## ○女性農業委員の登用について

女性農業委員については、政府の「男女共同参画基本計画（第2次）」において2020年までに指導的地位にある女性の占める割合が30%程度になるように期待するとしており、「食料・農業・農村基本計画」においても「女性農業委員の登用増の目標を設定し、その実現のための普及の啓発等を実施する」ことが平成22年3月に閣議決定されました。これを受けて、徳島県農業会議会長や前農業委員会会長が中心となり、学識経験者として農業委員への女性の積極的な登用について鳴門市長や鳴門市議会議長に要請し、平成23年7月の第21回農業委員選挙では3名の女性農業委員が誕生しました。

平成26年7月の第22回農業委員選挙においては学識経験者として女性農業委員が4名登用され、女性の明るく活発な農業委員会活動が女性農業委員の増加につながったようです。また、改選後初めての総会では、新会長に谷口清美氏（60）が互選されました、谷口会長は前期に農政部副部会長を務め、2期目である今期はJAの徳島北女性部長なども歴任し、レンコン茶の特産化を先導するなどの実績があります。

#### IV 女性農業委員の特徴ある活動について

##### A 農業委員に就任するにあたって、重点的に取り組みたい活動について

鳴門市農業委員会会長 谷口清美さん



##### a 農業者年金加入推進について

政策支援加入区分3の家族経営協定の締結をすすめて、女性の地位の向上を図っていきたいと考えています。私は旧年金で女性加入が認められるようになったすぐに県内で初めての女性農業者の加入者となりました。夫に先立たれた場合、国民年金だけの生活では非常に苦しくなり、老後について安心安全にすごしていくには必要な制度であったからです。平均寿命の長い女性にこそ農業者年金は必要な制度であると考えています。

私自身の活動としては、最寄りのJAに女性の加入対象者についてリストを作成し最寄りのJAに働きかけを要請するなど加入推進に積極的に取り組んでいます。また、近くの未加入の若い農業者や女性の農業者には経営者を通して加入を促していく活動を行っています。

最近では市内だけの活動にとどまらず、農業者年金の専門誌「のうねん」のインタビューや自身の体験談を農業者年金の研修会で話すなど、農業者年金の啓発普及を積極的に行っています。鳴門市農業委員会では、加入推進員を8人設置し、特に加入推進部長4名は今年度合計で100時間もの加入推進活動を行っていく予定です。

## b 担い手育成対策について

農家人口の減少から担い手育成対策についても取り組んでいきます。鳴門市では青年就農給付金を受け、農業を始める若者が増えてきており、そんな若者を対象に「婚活」に力を入れて取り組む方針です。鳴門市だけではなく他の市町村として連携し婚活パーティーを開催するなど提案も積極的に行っています。

### ○鳴門市女性農業委員の活動○



鳴門市農業委員 斎藤はつ子さん

私たちは女性農業者の宣伝隊と考えています。委員になったことで各勉強会や各地に出向くことが多くなり、それが鳴門市に止まらず違う地域での女性農業者への刺激になればと思っています。

私は父が農事組合の支部長を務めていたときに旧年金での加入推進を手伝い色々な家庭へ訪問して活動を行ったことがあります。

現在の年金制度では家族経営協定が女性の農業者地位の向上に強く関わってくるため積極的に推進活動を行っていきたいです。



鳴門市農業委員 林博子さん

近隣の優良農地が耕作もせず貸しもせず、荒れていくような場所を見ると、誰かに貸して耕作を行えばいいのにと考えます。

こういった指導はどこが行うのかなと考えたと農業委員の私が行っていかねばならないんだと感じます。

1期目でまだまだ何をして良いのかは分かりませんが、農業委員の活動は幅広く自分自身が農業の為になることを提案していけるようになりたいです。

一番の課題として、耕作放棄地の解消に向けて勉強し行動していきたいです。



鳴門市農業委員 原内秀美さん

近隣地域では耕作放棄地が増え、高齢化が進んでいる現状にあります。

地元に着目した農業委員の活動として、60歳以上のシルバー人材を育成し、農業従事者の減少を食い止めるような活動が出来ればと考えております。

また、6次業化にも興味があり、私は畑でとれた果実、野菜を加工し、自宅で料理を楽しんでいます。鳴門では谷口会長がレンコン茶を販売するなどの活動を行っているので、先輩方に色々と勉強させて頂き、6次化に向けた活動を提案していきたいです。

#### B 鳴門市前農業委員の方に重点的に取り組んだ内容について聞いてみました



鳴門市前農業委員 仲須眞理さん

県からインターンシップの受け入れの勧められたのがきっかけで、毎年二名の農大の研修生を受け入れ指導を行ってきました。毎年新しい人とお付き合いでき、大変なこともありましたが私自身にも良い刺激にもなりました。

また最近ではレンコンの栽培したいという地元の青年に1年かけて指導を行いました。現在その方は自分でレンコンの栽培を行っています。

市内市外問わず、農業の担い手の育成についてはこれからも力を注いでいきたいです。

#### V その他特色ある活動について



### ○女性農業委員協議会の設立

県内女性農業者33人が平成26年11月に女性農業委員協議会を設立しました。設立総会には、女性農業委員のほか、熊谷副知事や県農業会議の寺井会長、各市町村農業委員会の関係者ら合わせて約100人が出席しました。

初代会長には、鳴門市農業委員会会長の谷口清美氏が就任し、女性の視点を活かして農業委員会活動を強化して農業の成長産業化や農村の活動に貢献していきます。

協議会では女性農業委員の資質向上のための研修会開催、農村での男女共同参画を実現する政策の提案や要望、市町村農業委員会に女性委員の登用拡大に向けた働きかけなどを行います。

具体的には、農業従事者の婚活支援や食育、農産物の加工品開発といった女性の得意分野を中心に活動する予定です。

## ○担い手育成対策についての取り組みについて



写真右から2人目 大久保委員

写真中央 齋藤委員



写真中央 谷口会長

## ○女性登用アドバイザーの活動

12月11日東京都千代田区主婦会館にて女性農業委員ネットワーク研修会が開催されました。徳島県からは、女性登用アドバイザーの鳴門市農業委員会会長の谷口氏、鳴門市農業委員の齋藤氏、吉野川市農業委員の大久保氏が出席しました。研修会では、課題である女性農業委員の登用促進と役割について討論が行われました。特に婚活については、各県が取り組むべき課題であり、現在成果を上げている他県の意見を聞き、県内で発足した女性農業委員協議会では「婚活」が来年度からの活動の目玉の一つになる予定です。